

布教使アンケート調査結果報告書

(2019年度実施)

～連区別にみた調査報告～

浄土真宗本願寺派
僧侶養成部＜布教使担当＞

1

目次

調査分析の概要

アンケート分析にあたって

調査結果

まとめ

付録

- ・アンケート用紙
- ・『本願寺派布教使の現実と課題 ―布教使アンケート調査研究報告―』（1983年調査）との比較

2

調査分析の概要

1. 目的

この調査分析は、これまでご縁を結んでこられた方はもとより、これまでご縁のなかった方に阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝えるための、布教伝道、並びにそれに対応できる人材育成に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象及び方法

<調査対象> 本願寺派布教使3,668名（2019年5月1日現在）

<調査方法> 郵送法（配布・回収とも）

3. 調査基準日 2019（令和元）年11月10日

4. 調査回収数と回収率

（1）返信数：1,664票（無効票数：120票）

有効票数：1,544票（分析対象の調査票）

（2）回収率：45.4%

5. 調査主体 浄土真宗本願寺派 布教線拡充検討部会（僧侶養成部<布教使担当>）

6. 調査分析 舟橋和夫（龍谷大学名誉教授）

3

アンケート分析にあたって

宗門総合振興計画 重点項目5. 「お寺にご縁のない方々と共に集える開かれたお寺づくり」について、特に「布教線の拡充を推進」するにあたり、布教使の活動実態についてアンケート調査を実施。

1. 連区別に統計図表を表していることについて

- ・ 連区別の統計分析および図表にたどり着くまでには、さまざまな分析を試みました。
- ・ たとえば教区別に分析をしてみました。すると、設問の選択肢の値が小さすぎる場合もあり、教区単位だと悪意がなくても回答された個人を特定できる可能性もあることが分かりました。
- ・ 本調査は個人の特定ではなく、個人情報保護しつつ集団としての特性を把握するために実施した調査統計分析です。
- ・ そのため分析単位を教区ではなく、また東日本・西日本といった大きすぎて大雑把な単位ではないものに焦点化しました。それが連区です。
- ・ 同時にそれは現在まで続く研修の実施単位として機能していて、実務的にもいわばちょうどいい単位であった訳です。

4

2. 連区別にみた調査結果の見方について

- 前章で述べたとおり、調査結果は基本的に連区別に表しています。
- その際、統計的に連区間に差（有意差）が認められる調査項目に限って図表として取りあげています。
- 統計的に有意差のない調査項目は図表として採用しておりません。
- また、データの表現は数値ではなく図で表現しています。つまりビジュアル化（視覚化）しています。その際基本的に見慣れていて、見やすい縦棒グラフで表現しています。
- 棒グラフは、量の大小関係（比較）を表すのに最適だからです。比較関係を一瞬で把握するのに棒グラフは長けています。該当連区の特徴も全体の傾向も簡単に認識することが可能です。

3. 調査結果は連区単位にみた、設問の選択項目についての選択率を表しています

- たとえば旅行に関する設問（調査項目）があって、回答には選択肢「すき・きらい」で回答するとしますと、「すき」と答えた人数全員は250人で、第1連区で「すき」と答えた人が60人いるとします。
- すると、第1連区の「すき」の%（割合）は、合計250人に対する「すき」回答の人数60人の割合なので、 $60/250$ で24.0%になります。したがって、縦棒グラフでは24.0%の高さまで棒が伸びています。
- このようにして全項目が連区単位に計算されて、縦棒グラフで表現されていますので、**連区の特徴を読む**ことが可能になります。

5

4. 各図表に書かれている分析結果について

- ここに書かれている内容は、定まった見方ではなく、いくつかある見方の一つを表しています。
- 特に割合の比較によって縦棒グラフが表現されていますので、その見方は一つではありません。いくつもの見方でみることも可能です。
- まずは**自分なりの体験に基づいた見方で理解・解釈**されるのが理解のスタートであると思います。そして多様な見方・理解に触れ、その中から真理に近い理解にできるかぎり近づいていただければと思います。

5. 調査の実施時期について

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は2019年12月に中国で初めて報告され、その後も変異株の流行が世界各地でみられ、今もなお世界的な流行を見せています。日本社会も新型コロナウイルス感染症の影響を質量共に受け、社会が大きく変動したことを実感しました。
- 今回の調査の内容と実施は、**新型コロナウイルス感染症の影響をほとんど受けずに分析**をすることになりました。その点、新型コロナウイルス感染症による社会変動の分析はできておりません。今後の調査研究を待たざるをえません。

6

6. 新型コロナウイルス感染症以前の社会分析について

- 今回の調査結果は前述の通り、主として新型コロナウイルス感染症以前の社会を分析しています。ある意味で旧社会の分析になります。良い悪いは別にして**分析中に感じた社会に対する感覚**は、以下の通り相反する社会像でした。
- 一つは、新型コロナウイルス感染症**以前の社会**、すなわち伝統的社会的いわば永く安定的に継続し出来上がった社会であり、固定的な社会像になります。今日までの先人や先輩の踏みならしていただいた**安定的な道（社会像）の中を歩いている感覚**です。
- もう一つの社会像は、コロナ中もしくは**コロナ後の社会**のあり方が不安定で、今まで知らなかった新しい道を危なげに歩いている印象です。特に人口を始め、経済的にも、政治的にも、そして宗教的にも地面の底から「**減少社会**」に**変化しつつある感覚**を強く受けました。
- この連区別の結果から何らかの新しい発見があり、新しい一歩を歩み始めていただけたら、これほどの喜びはありません。

7

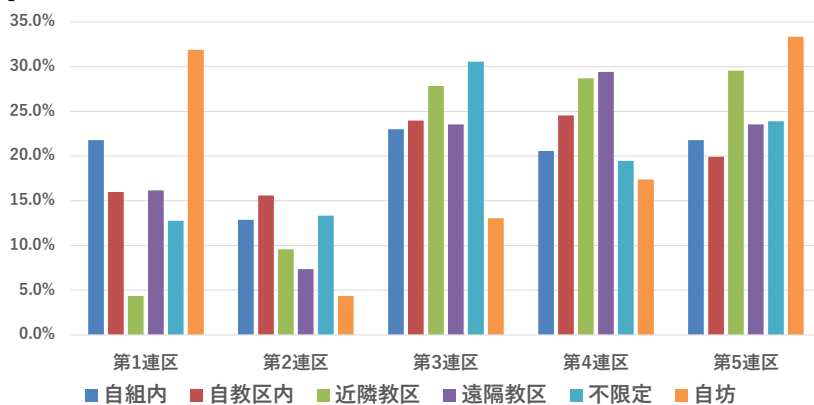
調査結果

8

最も多く法話をした地域

第3連区、第4連区および第5連区では全項目において、相対的に高率。それに対して第1連区では自坊での法話の割合が極めて高く、第2連区では自坊での法話が最も低い。

Q01 最近1年間であなたが最も多く法話をした地域をお聞かせください。(ひとつ〇印)

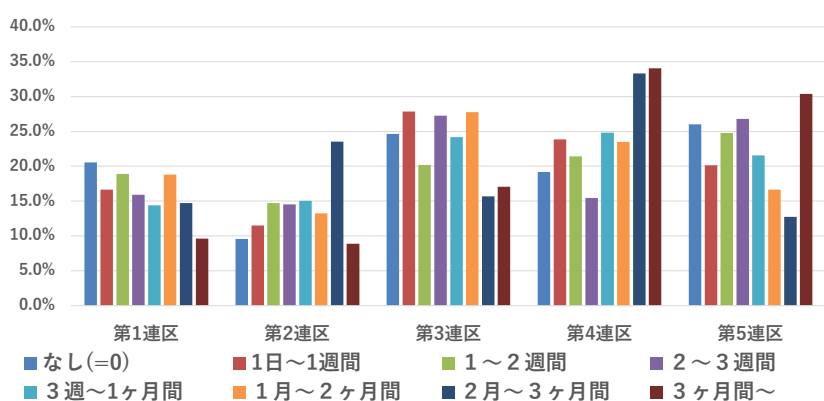


9

法話日数

第1連区は右肩下がり気味、第2連区は中央を頂点とした山型をしているが、2-3ヶ月間のみ煙突状になっていて高率である。第3連区から第5連区までは高率ではあるが特定のパターンを形成しているわけではない。ただ、第4連区では右肩上がりの傾向を示すが2-3週間の率が低く谷を形成しているのが目立つ。

Q02 最近1年間であなたの法話をした日数をお聞かせください。延べ日数をお書きください。ない場合は0(ゼロ)とご記入ください。

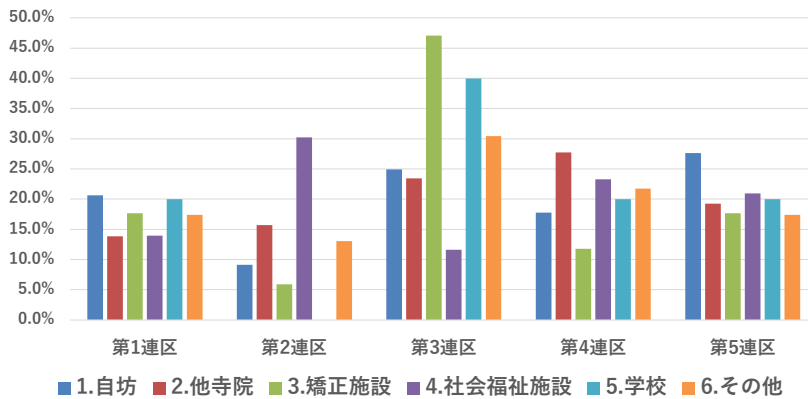


10

最も多く法話をした場所

最初に注目すべき点は最も高率の棒です。第3連区の3番目の棒すなわち矯正施設です。全国的にも17件と少ない件数で、しかも第3連区に集中しているのは何か事情があるのでしょうか。また、第2連区で学校での法話がゼロである理由もあると考えられます。

Q03 最近1年間であなたが最も多く法話をした場所はどこですか。(ひとつ〇印)



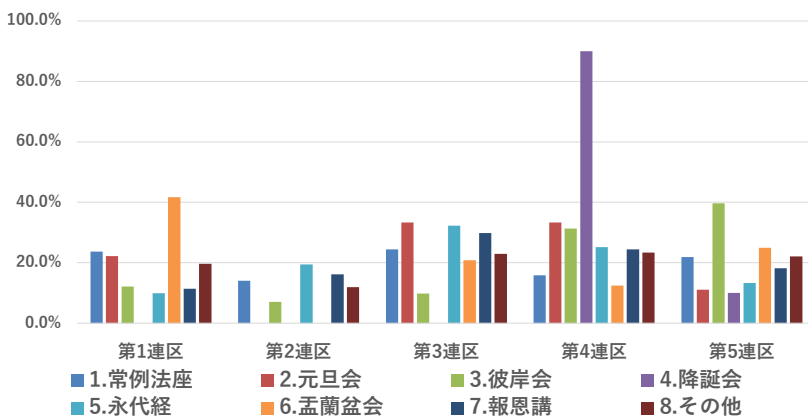
回答	実数	%
1.自坊	563	36.5
2.他寺院	823	53.3
3.矯正施設	17	1.1
4.社会福祉施設	43	2.8
5.学校	5	.3
6.その他	92	6.0
合計	1543	100.0

11

最も多く法話をした場面

降誕会での法話と回答した方の割合が最も高いのが第4連区である。全国で降誕会の回答は10件と少なく、また第1連区、第2連区および第3連区はゼロであるので、第4連区が突出したと考えられる。他は第1連区の盂蘭盆会、第5連区の彼岸会などでの法話が相対的に高率である。

Q04 最近1年間であなたが最も多く法話をした場面はどれですか。(ひとつ〇印)



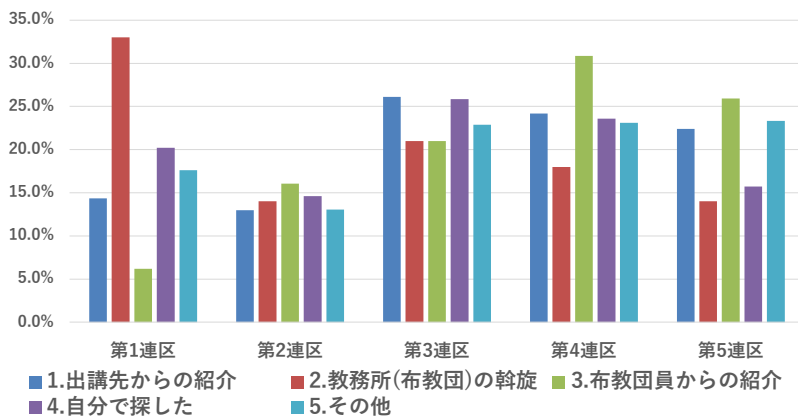
回答	実数	%
1.常例法座	452	29.6
2.元旦会	9	0.6
3.彼岸会	215	14.1
4.降誕会	10	0.7
5.永代経	214	14.0
6.盂蘭盆会	24	1.6
7.報恩講	355	23.3
8.その他	245	16.1
合計	1524	100.0

12

最も多くご縁のあった布教先

第1連区のデータをみると、教務所（布教団）の斡旋が飛び抜けて高率で、布教団員からの紹介が極端に低率である。この現象は他の連区では見られず、両者がほぼ同じぐらいか、布教団員からの紹介の方が教務所（布教団）の斡旋より高率である。

Q05 最近1年間であなたに最も多くご縁のあった布教先（紹介先）はどこからですか。（ひとつ〇印）



回答	実数	%
1.出講先からの紹介	738	50.9
2.教務所(布教団)の斡旋	100	6.9
3.布教団員からの紹介	84	5.8
4.自分で探した	89	6.1
5.その他	440	30.3
合計	1451	100.0

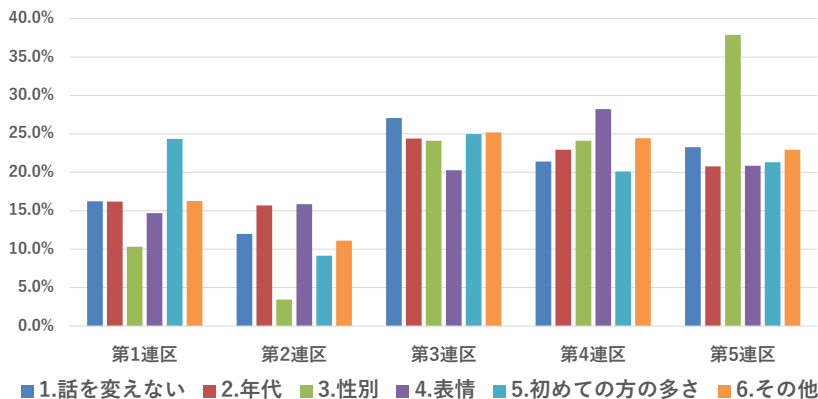
欠損値：93

13

参拝者により話を変えるか

第5連区では、参拝者の性別によって話を変える布教使が際立って高率である。対して、第2連区では性別によって話を変える割合が低い。ジェンダー意識によるのか？

Q06 あなたは現場で参拝者に合わせて話を変えることはありますか。ある場合は変えるポイントはどこですか。（ひとつ〇印）



回答	実数	%
1.ない	433	28.5
2.年代	414	27.3
3.性別	29	1.9
4.表情	342	22.5
5.初めての方の多さ	164	10.8
6.その他	137	9.0
合計	1519	100.0

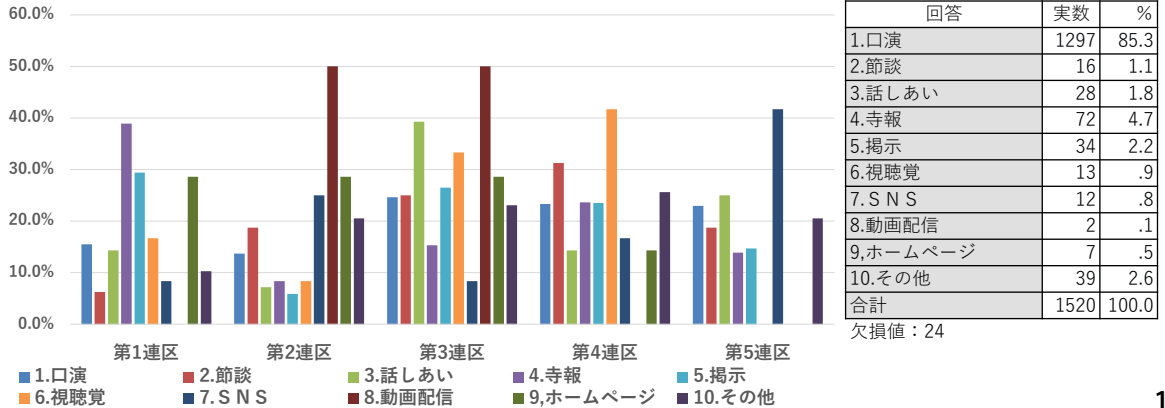
欠損値：25

14

最も多い布教方法

選択肢の中では、「口演」が全体の85.3%を占め他を圧倒している。この状況を考慮に入れると、現状では口演が最も影響力のある布教・伝道方法であるといえよう。

Q07 最近1年間であなたの布教・伝道方法で最も多いのはどれですか。（ひとつ〇印）

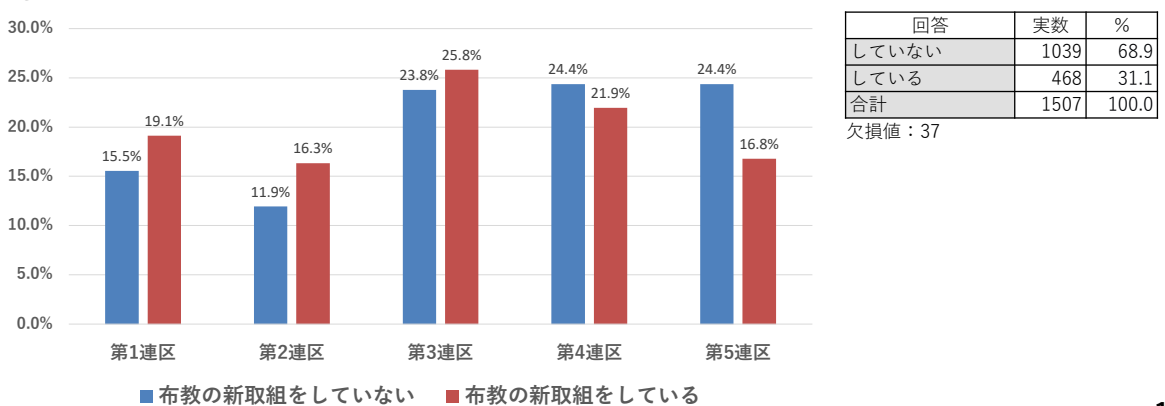


15

布教のための新しい取り組み

第1連区、第2連区および第3連区では、新しい取組をしている方がしていない方より高率である。他方、第4連区と第5連区では、新しい取組をしていない方がしている方を上回っている。そして、第5連区では両者の差が大きい。

Q08 最近1年間であなたは布教・伝道のため、新しい取り組みをされていますか。（ひとつ〇印）

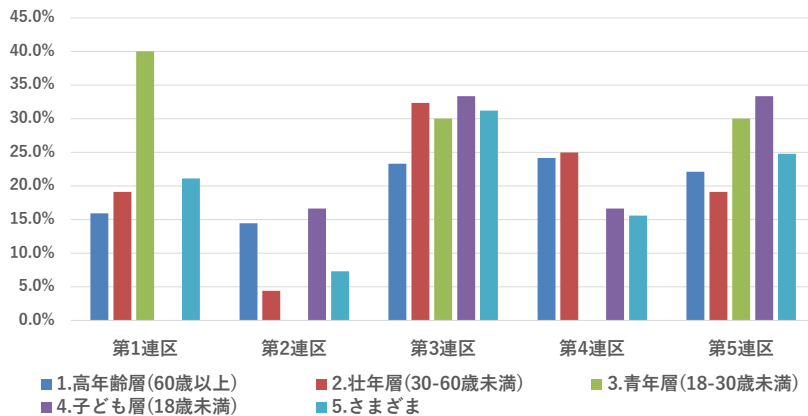


16

法話会所の年齢層

法話をした会所で高年齢層(60歳以上)の方が最も多いと回答した方が全体としては87.1%であり、他の年齢層の参加者は極めて少ないのに注意を払う必要がある。とりわけ青年層(18-30歳未満、0.7%)と子ども層(18歳未満、0.4%)においてはゼロに極めて近い。

Q09 最近1年間であなたが法話をした会所では、どのような年齢層の方が最も多かったですか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.高年齢層(60歳以上)	1329	87.1
2.壮年層(30-60歳未満)	68	4.5
3.青年層(18-30歳未満)	10	.7
4.子ども層(18歳未満)	6	.4
5.さまざま	112	7.3
合計	1525	100.0

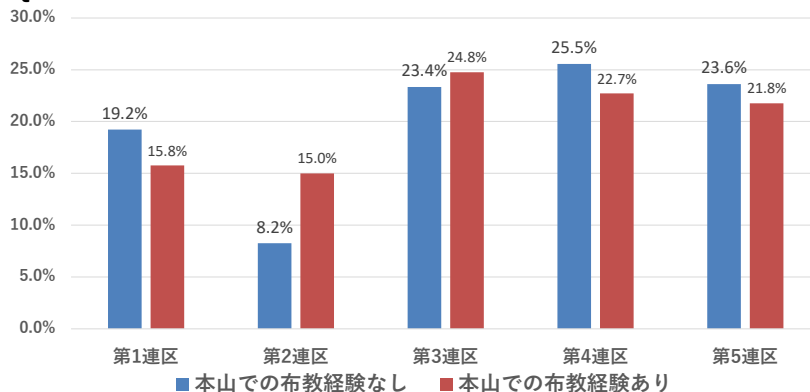
欠損値：19

17

本山・別院での布教経験

第2連区と第3連区においては、本山・別院での布教経験がある人の割合が経験のない人よりも多く、逆に、第1連区、第4連区と第5連区では、布教経験のない人の割合が多い。

Q12 あなたは本山、別院等の施設において布教したことがありますか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.ない	367	23.8
2.ある	1177	76.2
合計	1544	100.0

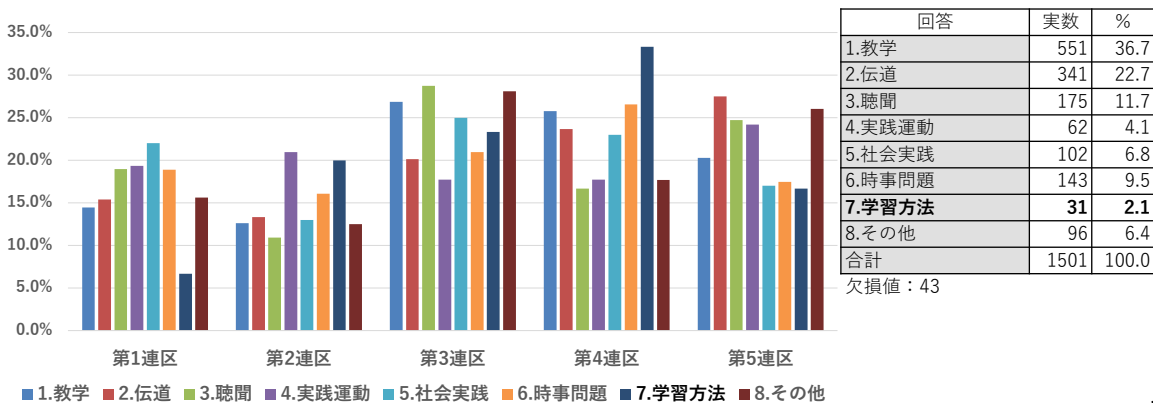
欠損値：0

18

受けた研修

受けた研修で「7.学習方法」に注目すると、第1連区では他の項目よりも相対的に低いが、第2連区、第3連区および第4連区まで徐々に高くなっていきます。ただそれも第5連区になると相対的に低くなっていきます。他の選択肢項目でも、そのような相対的差が確認できます。

Q13 あなたはどのような研修を受けたいですか。（ひとつ〇印）

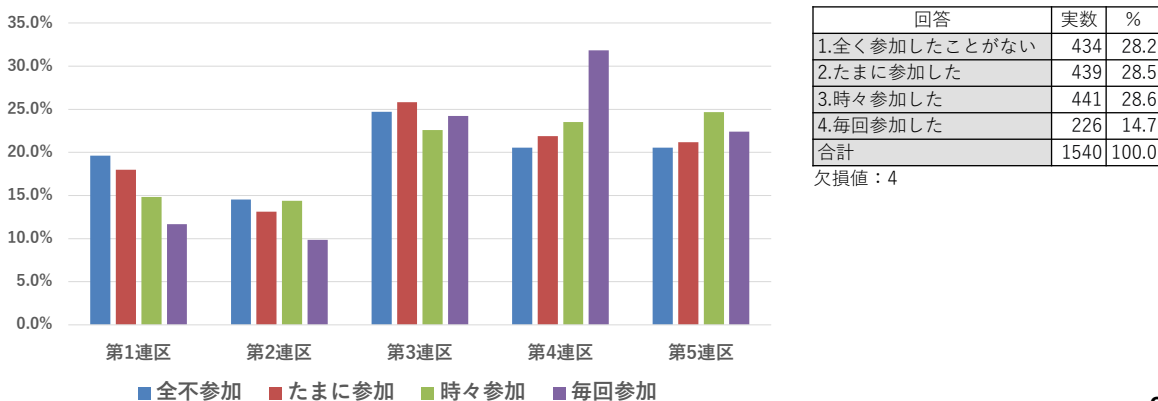


19

布教使研修会への参加

連区単位の布教使研修会への参加度を尋ねている。それによると第1連区と第2連区のように全く参加していないが相対的に高く、毎回参加しているのが低いタイプと、第4連区と第5連区のように全く参加していないが相対的に低く、毎回参加しているのが相対的に高いタイプに分かれているようです。

Q14 最近5年間であなたは連区の布教使研修会に参加されましたか。（ひとつ〇印）

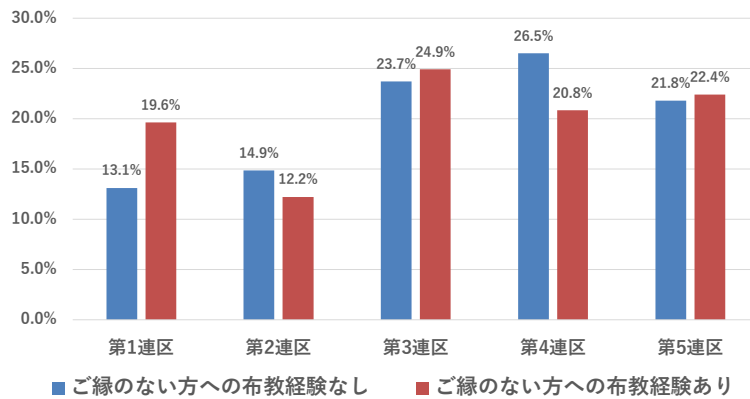


20

ご縁のない方への布教経験

仏教や浄土真宗にご縁のなかった方々への布教経験を尋ねています。ここでは「布教経験あり」と「なし」の両者ともに同程度のタイプ（第3連区と第5連区）と、「布教経験なし」が「あり」よりも高いタイプ（第2連区と第4連区）、そして第1連区のように「布教経験あり」が「なし」より高いタイプに分かれそうです。その要因も気になります。

Q15 最近1年間であなたはこれまで仏教や浄土真宗にご縁のなかった方々への布教の経験がありますか。ひとつ〇印)



回答	実数	%
1. 経験なし	682	44.7
2. 経験あり	844	55.3
合計	1526	100.0

2. 経験あり（具体的な場面：）

回答	実数	%
高齢者を対象として	162	22.4
子ども若者を対象として	152	21.0
ご縁のない方を対象として	94	13.0
日常	39	5.4
知人・同窓会	15	2.1
地域の人を対象として	72	9.9
通夜・葬儀・法事	144	19.8
寺院・組・教区行事	19	2.6
他派・海外の方を対象として	23	3.2
教誨	4	.6
合計	724	100.0

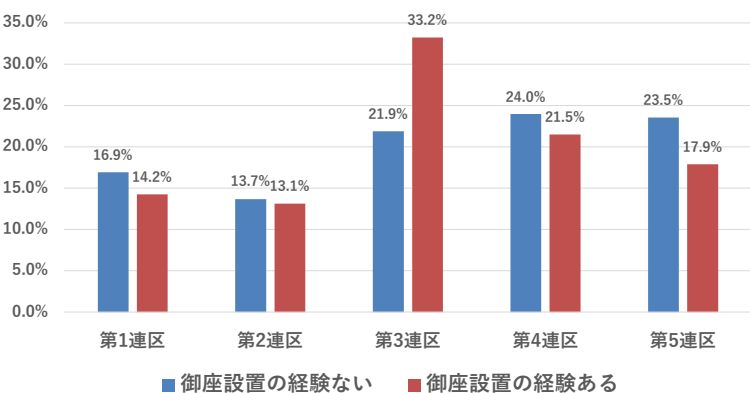
欠損値：120

21

法座企画の有無

自ら御座を設けた(企画した)ことがあるかどうかを尋ねています。その結果によると、第3連区と他の連区の2つのタイプに分かれているようです。第3連区では御座を設けた経験を有する方が経験を有していない方よりも圧倒的に高くなっています。他の連区では、両者の差は大きくはないが経験を有していない方が相対的に高くなっています。

Q16 最近1年間であなたは自ら御座を設けた(企画した)ことがありますか。教区布教団での活動は除きます。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1. ない	1156	76.3
2. ある	360	23.7
合計	1516	100.0

欠損値：28

2. ある（具体的な場所など：）

回答	実数	%
教区・組内	19	5.8
地域・公民館	15	4.5
自坊・寺院	179	54.3
門徒宅	4	1.2
イベント・サークル	28	8.5
法座・講座・研修会	68	20.6
施設	16	4.8
他宗派・海外	1	.3
合計	330	100.0

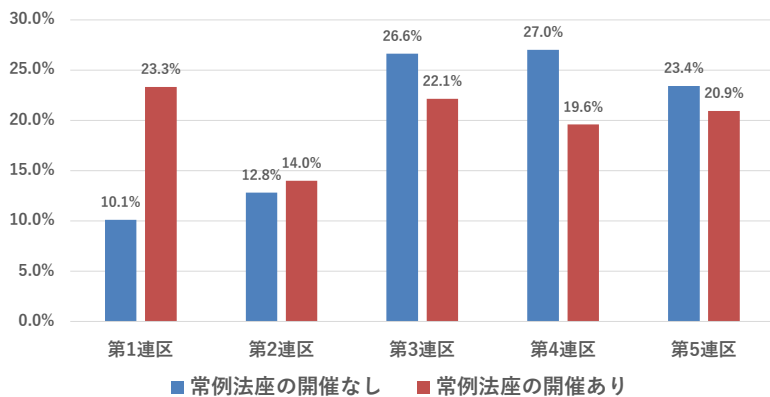
欠損値：30

22

自坊での常例法座開催の有無

自坊で常例法座の開催をされているかどうかを問うています。結果は、第1連区では開催している方が圧倒的に高い割合を示し、第2連区では両者はほぼ同一の割合であるが開催している方がほんの少し高い。他の第3連区、第4連区、そして第5連区では開催していない方の割合がしている割合よりも高くなっています。

Q17 最近1年間であなたは自坊で常例法座を開催されていますか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.開催していない	790	51.2
2.開催している	754	48.8
合計	1544	100.0

欠損値：0

2. 開催している
(開催日数：年延べ約 日)

回答	実数	%
1～9日	228	30.2
10～19日	406	53.9
20～29日	81	10.7
30日～	39	5.2
合計	754	100.0

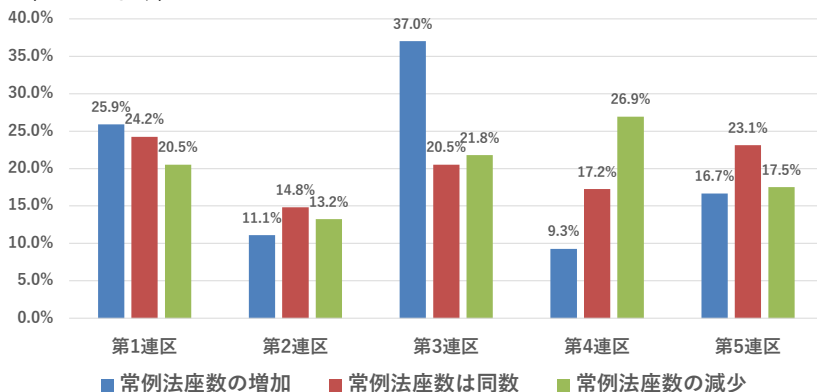
欠損値：0

23

自坊での常例法座数の増減

自坊での現在の常例法座数について5年前と比較しての増減を問うています。それによると、第3連区では増加が圧倒的に高く、第1連区では増加が高く、減少が低い。それらに対して第4連区は増加が低く、同数と減少の割合が順次高くなっている。第2連区と第5連区はほぼ同数が高い割合になっています。

Q17-1) 最近1年間の自坊の常例法座数は5年前の法座数と比べて、増加・減少していますか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.増加している	54	7.2
2.ほぼ同数	459	61.2
3.減少している	237	31.6
合計	750	100.0

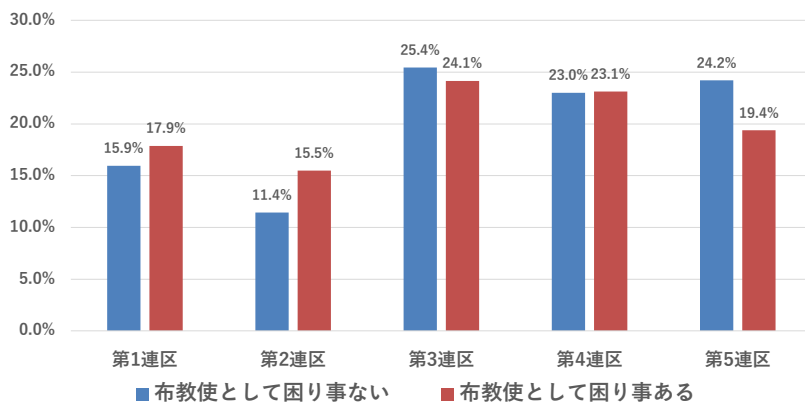
欠損値：4

24

布教使としての困り事の有無

「困り事がない」方が、「ある」のに対して高いか同程度になっているのは、第3連区、第4連区、第5連区です。残る第1連区と第2連区は、「困り事はある」方が「困り事はない」方より高くなっています。

Q18 あなたは布教使として困っていることはありますか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.ない	830	58.4
2.ある	591	41.6
合計	1421	100.0

欠損値：123

2. ある (具体的に: _____)

回答	実数	%
時間不足・多忙	59	11.0
お参りがない	39	7.3
人間関係	21	3.9
呼ばれない	123	22.9
研鑽・研鑽不足	148	27.6
健康・高齢	32	6.0
組織への不満	21	3.9
若い人への対応	26	4.9
法話の内容	63	11.8
法座への不満	4	0.7
合計	536	100.0

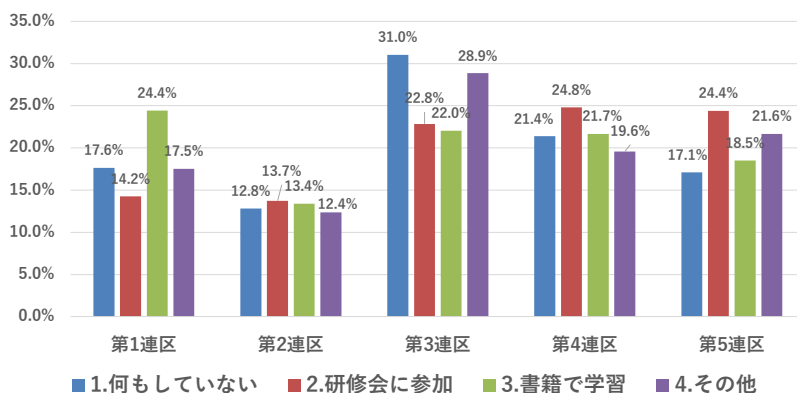
欠損値：55

25

同朋運動の学び

日常的に同朋運動(部落差別・人権問題等)に関する学びをしているかどうかを質問しています。「何もしていない」と答えた割合の高い連区は第3連区です。また書籍での学習が相対的に高い割合なのは、第1連区です。研修会に参加して同朋運動を学んでいると回答した割合は第3連区、第4連区および第5連区で相対的に高い割合を示しています。

Q21 あなたは日常的に同朋運動(部落差別・人権問題等)に関する下記の学びをしていますか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.何もしていない	190	12.4
2.研修会に参加	983	64.4
3.書籍で学習	255	16.7
4.その他	99	6.5
合計	1527	100.0

欠損値：17

4. その他 (具体的に: _____)

答	実数	%
日常で	21	24.4
運動に参加	14	16.3
研修にて	9	10.5
メディア・SNS	5	5.8
差別を受けた	1	1.2
委員・教員関係者	22	25.5
以前学んだ	10	11.6
現場で	4	4.7
合計	86	100.0

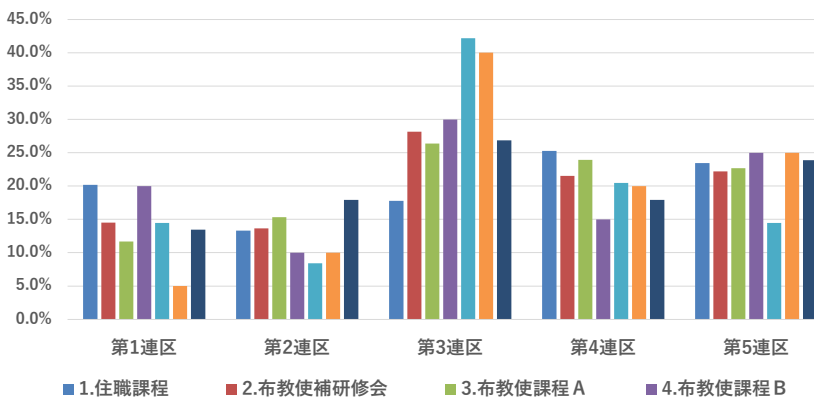
欠損値：13

26

布教使資格の取得方法

布教使課程Cと特別任用の高さが目立つのは第3連区です。また第1連区では、特別任用が際立って低い割合を示しています。布教使資格の取得方法は、全体的に住職課程(44.9%)と布教使補研修会(31.3%)で過半を占めています。

Q23 あなたの布教使資格の取得方法は何でしょうか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.住職課程	674	44.9
2.布教使補研修会	469	31.3
3.布教使課程 A	166	11.1
4.布教使課程 B	21	1.4
5.布教使課程 C	83	5.5
6.特別任用	20	1.3
7.その他	67	4.5
合計	1500	100.0

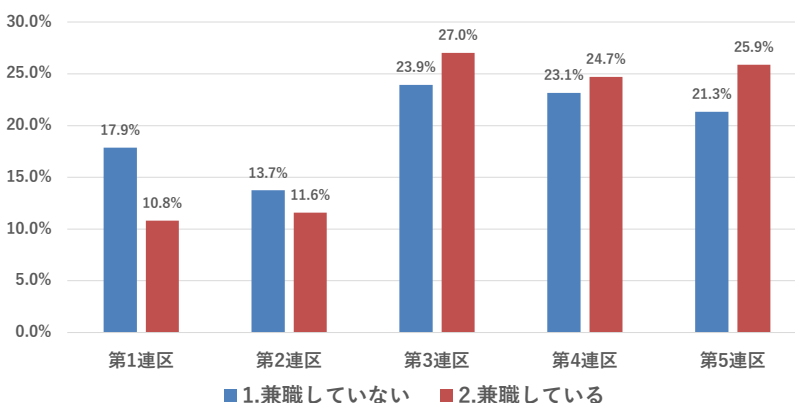
欠損値：44

27

兼職の有無

第1連区と第2連区では、公共団体や一般企業等との兼職をしている布教使より、兼職をしていない布教使が高い率を示しています。第3連区、第4連区および第5連区では、兼業していない布教使よりも兼業布教使が高い率を示しています。

Q26 あなたは現在、公共団体や一般企業等との兼職をされていますか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.兼職していない	1273	82.9
2.兼職している	262	17.1
合計	1535	100.0

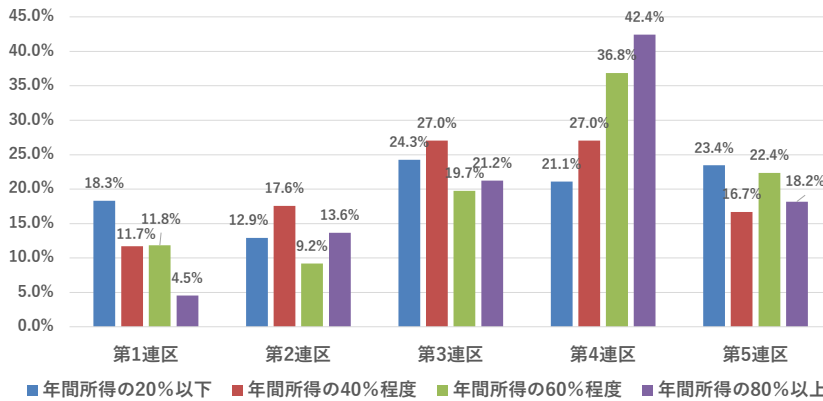
欠損値：9

28

布教法礼の割合

第1連区と第4連区で逆の反応を見せます。第1連区では布教法礼が年間所得の20%以下という方が最も高率で、年間所得の80%以上という項目が最も低い。それに対して、第4連区の回答では、それが逆転して年間所得の20%以下が最も低く、80%以上が最も高い率を示しています。

Q27 布教法礼の割合は、あなたの年間所得の何パーセントぐらいですか。(ひとつ〇印)



回答	実数	%
1.20%以下	1116	75.2
2.40%程度	222	15.0
3.60%程度	77	5.2
4.80%以上	68	4.6
合計	1483	100.0

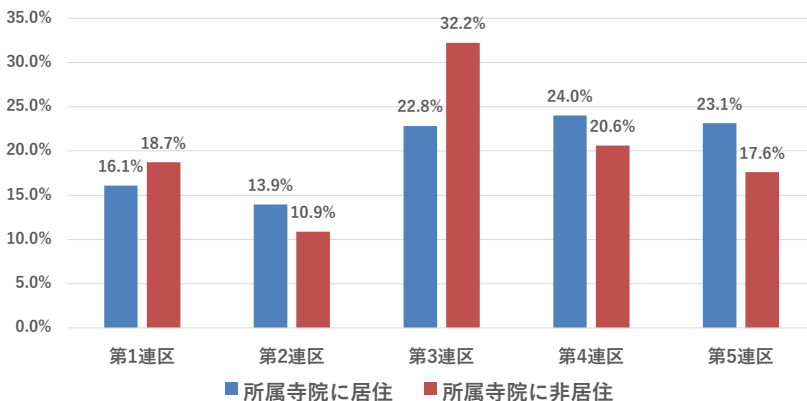
欠損値：61

29

所属寺院に居住の有無

第1連区と第3連区の布教使の方は所属寺院での居住よりも他所に居住している割合が高い。他の第2連区、第4連区それに第5連区では、所属寺院に居住している布教使の割合が高くなっています。

Q29-1) 所属する寺院に居住していますか。



回答	実数	%
1.居住している	1273	82.7
2.居住していない	267	17.3
合計	1540	100.0

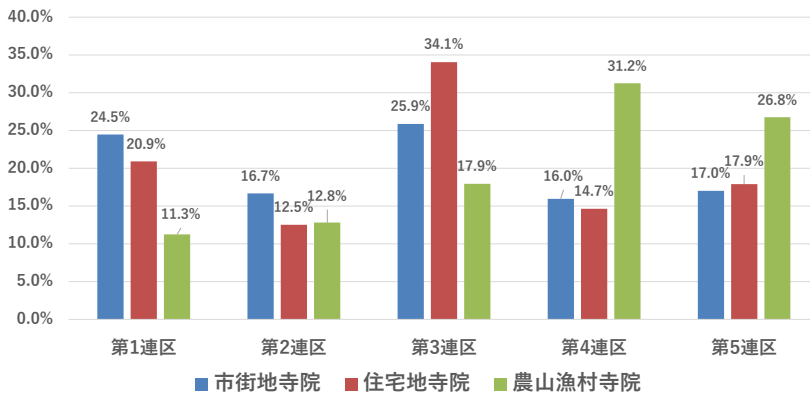
欠損値：4

30

所属寺院の立地環境

市街地か、住宅地か、それとも農山漁村かを聴いている。その回答によると、第1連区と第2連区では市街地寺院の割合が相対的に最も高率であり、第3連区では住宅地寺院の割合が最も高率であります。それに対して、第4連区と第5連区では農山漁村寺院の割合が高い比率を占めています。

Q29-2) 所属寺院の地域は市街地ですか、住宅地ですか、農山漁村ですか。



回答	実数	%
1.市街地	285	18.6
2.住宅地	467	30.4
3.農山漁村	784	51.0
合計	1536	100.0

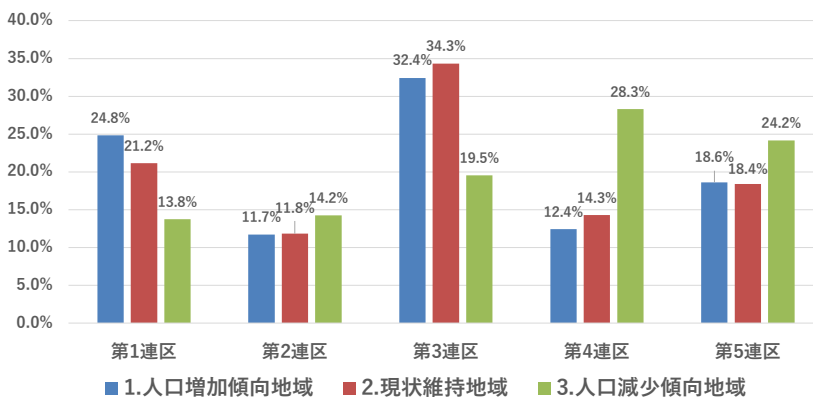
欠損値：8

31

所属寺院の人口増減

所属寺院の地域の人口増減を聴いている。その回答によると、第1連区と第3連区では人口増加傾向および現状維持傾向が人口減少傾向を上回っている。それに対して人口減少傾向が人口増加傾向と現状維持傾向を上回っているのが、第2連区、第4連区および第5連区である。

Q29-3) 所属寺院の地域における人口の増減について



回答	実数	%
1.人口増加傾向地域	146	9.5
2.現状維持地域	367	23.9
3.人口減少傾向地域	1024	66.6
合計	1537	100.0

欠損値：7

32

まとめ

- 今回の調査結果は前述の通り、主として新型コロナウイルス感染症以前の社会を分析しています。ある意味で旧社会の分析になります。良い悪いは別にして**分析中に感じた社会に対する感覚**は、以下の通り相反する社会像でした。
- 一つは、新型コロナウイルス感染症**以前の社会**、すなわち伝統的社会的な社会のいわば永く安定的に継続し出来上がった社会であり、**固定的な社会像**です。今日までの先人や先輩の踏みならしてくれた**安定的な道（社会像）の中を歩いている感覚**です。
- もう一つの社会像は、コロナ中もしくは**コロナ後の社会**のあり方が不安定で、今まで知らなかった新しい道を危なげに歩いている印象でした。特に人口を始め、経済的にも、政治的にも、そして宗教的にも地面の底から「**減少社会**」に**変化しつつある感覚**を強く受けました。
- この連区別の結果から何らかの新しい発見があり、新しい一歩を歩み始めていただけたら、これほどの喜びはありません。

付録（アンケート用紙）

Q22 あなたの布教使活動報告書の年数（令和元年11月1日現在）をお答えください。数字を二桁に入ってください。

例) 年

Q23 あなたの布教使活動の報告方法は何でしょうか。複数に上りの○印をつけてください。

1. 布教使報告書 2. 布教使報告書
3. 布教使報告書 4. 布教使報告書
5. 布教使報告書 6. 布教使報告書
7. その他

Q24 あなたの性別をお知らせください。性別に上りの○印をつけてください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

Q25 あなたの年齢をお知らせください。数字で記入してください。

歳

Q26 あなたの出身、活動地域や一般企業等上の業種を教えてください。複数に上りの○印をつけてください。

1. 重ならない 2. 重ならない

Q27 布教使としての間、あなたの年間所得のレンジを教えてください。複数に上りの○印をつけてください。

1. 20万円以下 2. 20万円超
3. 30万円超 4. 40万円超

Q28 あなたの地区をお知らせください。複数に上りの○印をつけてください。

1. 札幌 2. 仙台 3. 東京 4. 長野 5. 神奈川
6. 新潟 7. 富山 8. 石川 9. 福井 10. 山梨
11. 岐阜 12. 愛知 13. 岐阜 14. 京都 15. 兵庫
16. 大阪 17. 和歌山 18. 奈良 19. 鳥取 20. 徳島
21. 香取 22. 千葉 23. 山梨 24. 千葉 25. 神奈川
26. 大分 27. 熊本 28. 福岡 29. 熊本 30. 福岡
31. 鹿児島 32. 沖縄

Q29 あなたの所属する地域についてお答えください。それぞれについて複数に上りの○印をつけてください。

1) 所属する地域に居住していますか
1. 居住している 2. 居住していない

2) 所属する地域は花巻県ですか。指定してください。県山県ですか
1. 花巻県 2. 指定なし 3. 県山県

3) 所属する地域における人口の増減について
1. 人口増加傾向地域 2. 減少傾向地域 3. 人口減少傾向地域

4) 所属する地域における宗教状況について
1. 本教以外の宗教あり 2. 本教を専ら信仰する地域 3. 本教の信託なし

ご協力ありがとうございました

布 教 使 ア ン ケ ー ト

<ご記入のまゝにお読みください>

1) 調査員（ご記入は、あなたの自身のお考えで回答してください）
2) ご記入の項目は、複数回答のものとあります。したがって、この調査によって寺職または個人が不利を蒙ることは、絶対にありません。
3) 空欄の「」には、その具体的な数字を記入してください。書き留めない場合は、空白に記入してください。
4) このアンケートは、11月28日（日）までにご返送ください。（返着）

Q30 最近1年間であなたが最も多く出語をした業種をお知らせください。複数に上りの○印をつけてください。

1. 自動車 2. 日用品
3. 百貨店 4. 通信販売
5. 飲食店

Q31 最近1年間であなたが最も多く出語をした日数と出語数を教えてください。記入日数および総出語数をに記入してください。ない場合は「0」で記入してください。

1) 最近1年間の総出語回数 回
2) 最近1年間の総出語回数 回
（日単位の出語回数）

3) 最近1年間の総出語回数 回

Q32 最近1年間であなたが最も多く出語をした業種はどこですか。複数に上りの○印をつけてください。

1. 自動車 2. 日用品
3. 百貨店 4. 通信販売
5. 学校
6. その他（具体的に：)

Q33 最近1年間であなたが最も多く出語をした業種はどれですか。複数に上りの○印をつけてください。

1. 建設業 2. 元金
3. 飲食業 4. 美容業
5. 不動産 6. 医療業
7. 製造業
8. その他（具体的に：)

Q34 最近1年間であなたが最も多く出語した業種はどこですか。複数に上りの○印をつけてください。

1. 自動車からの割合 2. 布教使からの割合
3. 布教使からの割合 4. 自分だけの割合
5. その他（具体的に：)

Q35 あなたの職場で布教使に付随して出語することはありますか。ある場合は数とるポイントはどこですか。複数に上りの○印をつけてください。

1. ない 2. 年次
3. 性別 4. 業種
5. 初めての年次
6. その他（具体的に：)

付録

Q05 最近1年間であなたの布教・布教方法で最も多いのはどれですか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 口宣 2. 勧誘
3. 話しあい 4. 分派
5. 講堂 6. 掲載紙(フリーポイント・スタンプなど)
7. SNS(フェイスブックなど) 8. 掲載紙類(ホームページなど)
9. ホームページ 10. その他(具体的に) _____

Q06 最近1年間であなたは布教・伝道のため、新しい取り組みをされていますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. していない 2. している(具体的に) _____

Q07 最近1年間であなたは法福全した会所では、どのような年齢層の方が最も多かったですか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 青年層(10代後半) 2. 壮年層(20代後半～30代前半)
3. 中年層(40代後半～50代前半) 4. 高齢層(60代後半～70代前半)
5. その他 _____

Q08 あなたは布教団体の活動方針・活動計画を布教に取入れていますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 取り入れている 2. 取り入っていない

Q09 あなたは「御礼状の社会をめぐる布教(実践活動)」の場合基本前向きな姿勢でプロジェクトを布教に取り入れていますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 取り入れている 2. 取り入っていない

Q10 あなたは布教団、布教者の活動に賛同して参加したことがありますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. ない 2. ある

Q11 あなたはどのような経緯を受けたいですか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 教会 2. 伝道
3. 通訳 4. 実践活動
5. 社会実践 6. 時事問題
7. 学術方法 8. その他(具体的に) _____

Q12 最近1年間であなたは福音の布教活動に参加されましたか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 全く参加したことがない(その理由) _____
2. たまに参加した 3. 時々参加した
4. 恒常参加した

Q13 最近1年間であなたはこれまで伝道・布教活動に賛同のなかった方々への布教の経験がありますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 経験なし 2. 経験あり
(具体的な経緯とその反応) _____

Q14 最近1年間であなたは自ら布教を始めた(実践した)ことがありますか。布教活動での経験はありますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. ない 2. ある
(具体的な経緯・対象者など) _____

Q15 最近1年間であなたは自分で布教活動を開始されていますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 実践していない 2. 実践している(布教回数、年数(月) _____)
開始している場合、以下にお答えください)
1) 最近1年間の自分の布教活動は前年の活動と見比べて、増加/減少していますか。意見に上記の回答をつけてください。
1. 増加している 2. ほぼ同数 3. 減少している
2) 上記回答の理由などの理由を具体的に説明してください。
その具体的な理由 _____

Q16 あなたは布教活動として困っていることはありますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. ない 2. ある(具体的に) _____

Q17 布教使としてモデルになると言われる人物はどのような方ですか。過去の人物やイメージとして昔から人物の経緯を具体的に説明してください。簡単に書き添えてください。

1. _____
2. _____
3. _____

Q18 あなたは「布教使名簿」の閲覧が一般公開でもできるような必要があると思いますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 必要である 2. 必要でない
1) 上記回答の具体的な理由をお聞かせください。
具体的な理由 _____
2) あなたは一般公開が「布教使名簿」を閲覧できるようにした場合、ご自身のことを掲載したいですか。意見に上記の回答をつけてください。
1. 掲載したい 2. 掲載したくない

Q19 あなたは布教使の役割(伝道活動・人事活動等)に関する下記の学びをしていますか。意見に上記の回答をつけてください。

1. 何もしていない 2. 研修会に参加
3. 書籍で学ぶ 4. その他(具体的に) _____

『本願寺派布教使の現実と課題 —布教使アンケート調査研究報告—』 (1983年調査)との比較

<調査対象> 本願寺派布教使 2,787名(1983年12月31日現在)

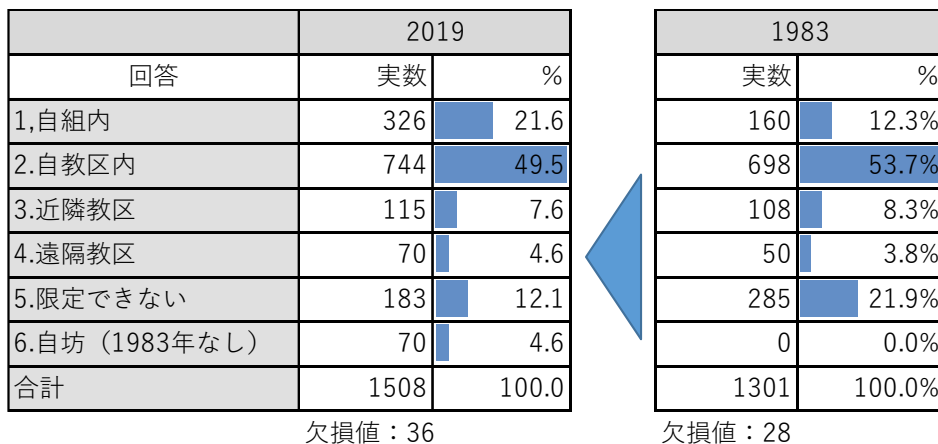
『本願寺派布教使の現実と課題—布教使アンケート調査研究報告—』

編集・発行 浄土真宗本願寺派 布教団連合(事務局 本山伝道部) 1987年6月10日発行

最も多く法話をした地域の比較

1983年当時と比べると、最も多く法話をした地域は自教区内が最多であるのは変わらないが、自組内の割合がおおよそ倍増している。

Q01 最近1年間であなたが**最も多く法話をした地域**をお聞かせください。(ひとつ〇印)

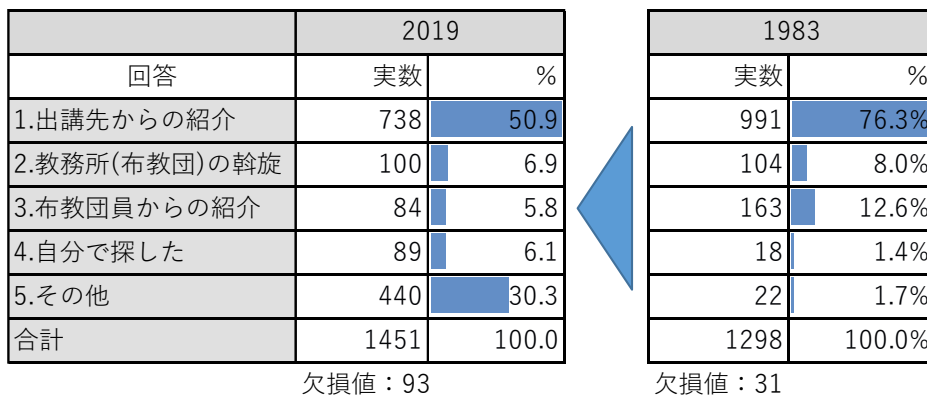


37

最も多くご縁のあった布教先(紹介先)の比較

「出講先からの紹介」は大幅な減少をみるが、「その他」を中心に「自分で探した」や「布教団員からの紹介」などが増加し、多様化が進みつつある。

Q05 最近1年間であなたに**最も多くご縁のあった布教先(紹介先)**はどこからですか。(ひとつ〇印)

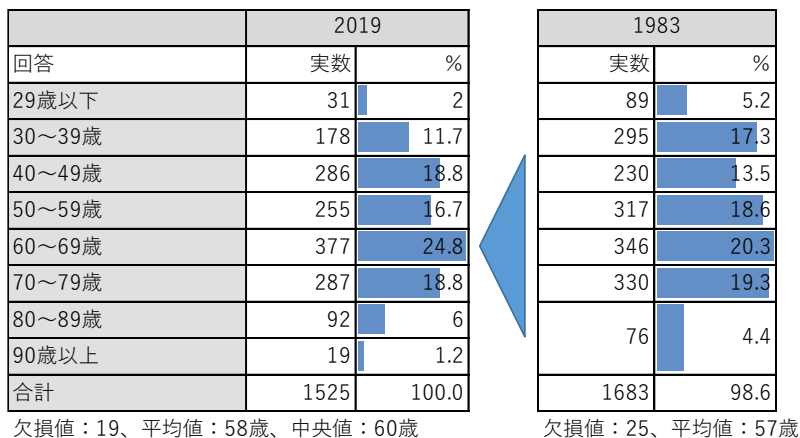


38

布教使の年齢比較

布教使の平均年齢（57歳→58歳）に大きな変化はないが、現代では60～69歳をピークに綺麗な山型をしている。布教への影響は？

Q25 あなたの年齢をお聞かせください。数字をご記入ください。

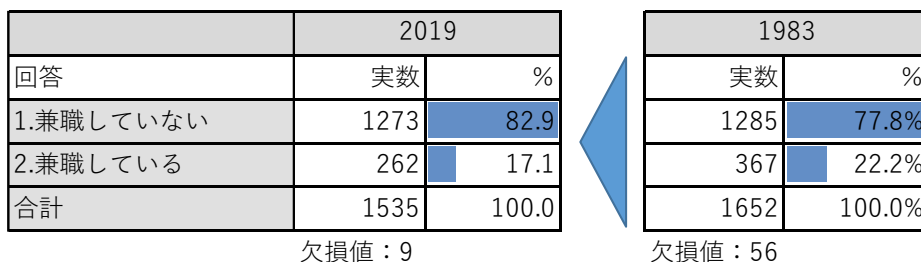


41

兼職割合の比較

1983年から2019年の兼職の割合には大きな変化は見られないが、兼職をしていない割合が若干増加している。つまり、兼職割合が多少減少している。

Q26 あなたは現在、公共団体や一般企業等との兼職をされていますか。（ひとつ〇印）



42

